

## コワいくらい純粹な浮気

東京のラッシュタイムに、不気味な電車が走っている。その名を「女性専用車」と言う。私も乗ったことがないから、どんな雰囲気なのかは分からぬ。しかし、女性ばかりなのだから、「痴漢」に遭う心配は絶対はない。女どうしで、押し合いへし合いする車内は、さぞ安心なことであろう。

駅には「痴漢は犯罪です」というポスターが諸所に貼られている。すべて男性を警戒したポスターであるらしい。男とはよほど危険な動物であるらしい。こんなポスターを見ていると、男はみんな痴漢で、女はすべて天使のように思えてくるから不思議である。これは、戦後風潮が生み出した「現代の迷信」だと私は思うのだが、とにかく男は分が悪い。痴漢についてはいずれ号を改めて「私の痴漢論」を開陳したいと思う。

同時に複数の男性を愛さぬ

ところで「女の浮気」である。女も浮気する。それが男ほど目立たないのは、女の愛には「単一指向性」が認められるからである。「単一指向性」があるのなら、それを浮気と呼ぶことはできないではないか、そんな疑問が浮上するかも知れない。いやいや、事はそれほど単純ではない。

男と違って女は、同一瞬間に複数の男性を愛するということがない。あっても、それはごく稀である。それは、妊娠するという女性の特質に起因しているのではないだろうか。妊娠すれば女性は、少なくとも出産するまでは男性に守ってもらわねばならぬ。人間の場合は、生まれて一人前になるのに二十年はかかるから、それまで女性と子供を守り続けるのは男の責任である。女性が男性に比べ「道徳的」に見えるのはこのような事情に原因があるのかも知れない。

しかし、だからと言って女性が浮気しないわけではない。昨今は「性の解放」が異常に強調され、テレビドラマ等にも、まるで浮気を奨励するようなものも少なくない。そのためであろうか、女性が夫や恋人以外の男性に心移すということも、決して珍しくはなくなった。しかしその場合でも、女性は、同時並行で複数の男を愛することはならぬ。

中には、その愛の対象を「時々切り替える」人もいるだろうが、その場合でも、同一瞬間に複数の人を愛するということはない。この「女の浮気」の特質が存在するように思われるのである。

女の浮気はレベルが高い？

私の友人に大変な「プレイボーイ」がいた。さして美男とは思えないのだが、女性に滅法モテる。若き日の私は、天の不公平をしきりに恨んだものである。彼は芸能界出身のある女性と親しくなった。名前を言えば、誰もが知っているような美女である。

彼を驚かせたのは、男性遍歴のうわさしきりだったその女性の、思いがけぬほどの一途さ

であった。何しろ、二人で旅行している電車の中で、彼が妻の話に触れたとき、彼女はその美しい顔を、きつと引き締め、「電車から飛び降りる」と言い放ったというのだから怖い。

「尻軽女」と世評に高い彼女も、ひとりの男性を思い詰める愛の濃密さにおいては、人後に落ちるものではなかった。ただ、その「切り替えの早さ」が、一頭地を抜いていたに過ぎないのである。ご多分に漏れず、「彼えの愛」は半年ほどで終わった。

羨望の思いでこの話を聞いた私は、週刊誌を賑わす女性タレントの愛も、その瞬間瞬間は、恐ろしいほどに純粹なのであろうと思った。男の浮気に比べ、少しレベルが高いような気もするが、中には、まことに素早く愛の対象を切り替える女性もいる。

「貞女」という言葉も、今では死語になってしまった。ともあれ、男も女も、それぞれ浮気に走る異なった危険を孕みながら、厳しく自らを戒めて生きていくべきなのであろう。

(月刊誌「旬なテーマ」平成18年7月号(中経出版発行) 男の生きる道/女の生きる道 掲載)